✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　緊急地震速報利用者協議会の啓発活動について

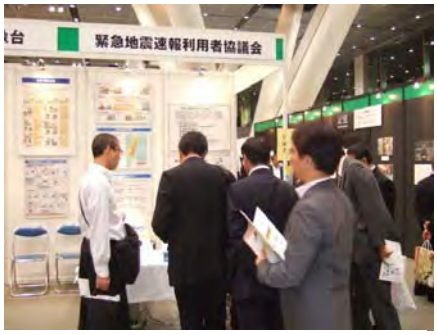
東京都などによる合同防災訓練会場のようす

3 月 11 日に発生した未曾有の東日本大震災以降、緊急地震速報について国民から大きな関心・期待が寄せられています。

緊急地震速報利用者協議会では、各種の展示会に積極的に参加し、緊急地震速報の啓発活動の一環として緊急地震速報の受信装置の展示やパンフレットの配布などを行っています。

10 月 12 日～14 日にかけては、東京国際フォーラムで中央労働災害防止協会主催の「緑十字展 in TOKYO」(来場者 33,000 人)に、10 月 19 日～21 日には東京ビッグサイトで「危機管理産業展（RISCON TOKYO）2011」(入場者数 63,274 人)に、10 月 29 日には「東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同総合防災訓練」（来場者 20,720 人）が小金井公園周辺で開催されました。

各展示会には、同利用者協議会の会員が多数出展され、リーフレットの配布や緊急地震速報システムのデモンストレーションなどを行い、来場者に緊急地震速報の有効利用などを呼び掛けました。



緑十字展における会員の活躍風景

各会場とも、東日本大震災の影響などで緊急地震速報に対する関心は非常に高く、各ブースの前で各会員から詳しい説明を求める来場者も多く見られました。異業種の団体・機関が集う緑十字展には、災害対策などに積極的に取り組んできた機関・団体として出展し、多くの方々に緊急地震速報を紹介することができました。

しかし、すべての展示会場において緊急地震速報のチャイム音は知っていても、緊急地震速報に予報と警報があることを知らない方が多く見受けられました。

緊急地震速報協議会では、更なる啓発活動の場として様々な展示会などに参加する必要性を感じました。

（財団法人気象業務支援センター配信事業部）